

守山まるごと活性化プラン検討委員会(第4回全体会議)

平成26年2月21日(金)

午後7時から 吉身会館にて

開 会

あいさつ (布野委員長)

議 事(協議事項)

(1) まるごと活性化プラン(案)について

※ プラン(案)に対する意見交換

- ・ 感想や意見について
- ・ 推進するための意見について など

(2) 各学区説明会について

守山まるごと活性化プラン検討委員会 全体会議 委員名簿

(敬称略)

1	大崎忠男	商工会議所 会頭
2	河野伊一郎	岡山大学 名誉教授
3	小西由美子	公募市民(吉身4丁目在住)
4	杉田英子	JAおうみ富士 女性部
5	高野隆男	河西学区長(川中自治会)
6	高谷好一	京都大学 名誉教授
7	竹村 昇	公募市民(伊勢町在住)
8	谷口喜久	玉津学区長(赤野井自治会)
9	千代雅人	守山学区長(千代自治会)
10	中明子	NPO法人 びわこ豊穰の郷
11	西田裕美	青年会議所
12	西村梯子	守山の女性たちによる女性の交流会 発起人(スペースウィン)
13	濱崎 一志	滋賀県立大学 地域文化学科教授
14	日下山靖幸	公募市民(小島町在住)
15	藤井絢子	環境省中央環境審議会委員(NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)
16	舟橋和夫	龍谷大学 コミュニティマネジメント学科教授
17	布野修司	滋賀県立大学 副学長
18	本城眞佐一	中洲学区長(立田自治会)
19	三品長一郎	小津学区長(三宅自治会)
20	三宅和夫	吉身学区長(グラントマン守山自治会)
21	村上瞳	企業経営者
22	山岡龍二	速野学区長(ネオ・ペラウィータ守山)
23	葭本勝利	企業経営者

守山まるごと活性化プラン（案）について

1 守山まるごと活性化プラン（案） H260221 現在 別添のとおり

計画がめざすもの

- ・ 「住みやすさ日本一のまち守山」の実現を目指し、各地域の地域資源を活用した市域全体の活性化に取り組む（各地域における課題を解決する中で、まちの活性化をめざす）
- ・ 地域と行政が連携し話し合いを深め、活性化の具体策について考える事を通して、住民の地域や本市への『愛着と誇り』の醸成をめざす

【学区ごとの取組 一例】

(1) 守山学区

テーマ「人がつながり、自然と歴史を大切にすまち」

自治会活動の改善研究／ホテルや伊勢遺跡活用で愛郷心の醸成 など

(2) 吉身学区

テーマ「吉身はめざします 自然・歴史・文化を次世代につなげるまち」

ホテルや下之郷遺跡など豊富な史跡を活用したまち歩きや住民交流 など

(3) 小津学区

テーマ「人と水と歴史がつながる生成(きな)りのまち」

新守山川で人と自然がふれあう住民手づくりの水辺環境づくり など

(4) 玉津学区

テーマ「玉津の伝統文化を活かし、先人の暮らしの知恵を子どもたちに引き継ぐまち」

諏訪屋敷等での文化伝承／農・水産物の地産地消／水辺環境保護 など

(5) 河西学区

テーマ「人をつなぐ」「四季をつなぐ」「たからものをつなぐ」未来につながるまちづくり」

住民手づくりの四季の花あふれる水辺空間づくり など

(6) 速野学区

テーマ「受け継いできた自然と未来を見つめる人が主役のまち

～守山の北の玄関 エコミュージアム(仮称)・はやの～

琵琶湖、地球市民の森、大川周辺を活用した速野エコミュージアム(仮称)づくり など

(7) 中洲学区

テーマ「野洲川と共に生き、野洲川と共に栄えるまち 心が通い合う「和む」まち」

野洲川で自然と気軽に親しめる場所づくり／にぎわい活力の創出 など

- | | | | |
|-----|-------------------|---|-----|
| (1) | プランの構成について | … | 目次 |
| (2) | 学区別まるごと活性化プランについて | … | 第3章 |
| (3) | 計画の実現にむけて | … | 第4章 |

2 今後の進め方

3月 議会へ 案を報告

学区ごとの住民説明会を実施

→ 守山まるごと活性化プラン策定（3月末）

平成26年度～ 順次具現化

※ 今回のプラン策定の方法 詳細は、別添 プラン（案）P5のとおり

目 次

第1章 計画の概要	1
1. 計画がめざすもの	1
2. 計画の性格と検討の視点	1
3. 計画の対象範囲と構成	2
4. プラン策定の背景—活性化に向けた主な課題	3
第2章 計画の策定	4
1. 策定の体制	4
2. 策定の方法	5
第3章 学区別まると活性化プラン	6
1. 「自分たちが住むそれぞれの地域を良くしたい」地域の思いを大切に	6
2. 市域を「つなぐ」守山まると活性化	73
第4章 計画の実現に向けて	74
1. 各学区での推進方向	74
2. 守山市の支援	

【調整中】

参考資料

- ・ 全体会議の概要
- ・ 学区別会議の概要 (ニュースレターや実施記録など)

第3章 学区別まるごと活性化プラン

各学区がめざすまちづくりプラン

1. 「自分たちが住むそれぞれの地域を良くしたい」地域の思いを大切に

「学区別まるごと活性化プラン」は、「自分たちが住むそれぞれの地域を良くしたい」「まちを良くしたい」との地域の思いを込めて、策定しました。

■学区別まるごと活性化プランのポイント

point1 学区のたからものや課題の明確化

Point2 学区の活性化の方向（テーマ）の明確化

Point3 学区を活性化するプロジェクトを5つ程度に絞り込み

Point4 プロジェクトに位置つけた取り組みの実施主体を明確化

Point5 5年程度での具体化をするものを「まず、はじめに進めていく取り組み」として取りまとめ、優先して事業展開を推進

守山学区活性化の実現に向けて

守山学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 <small>※地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと</small>
A. 自治会魅力向上プロジェクト	地域内の組織として自治会を考える会（仮称）を立ち上げ、自治会の運営方法や地域連携体制の見直しについて検討します。 ・自治会を考える会の立ち上げ ソフト 地域 ・自治会運営方法、取り組み内容等の見直し ソフト 地域 ・課題の要因分析(学区の役割、行政の改善点、自治会で努力すべき事項など) ソフト 地域
B. 守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト	伊勢遺跡や中山道等の歴史資源の活用を学区の重要課題と位置づけ、それぞれの周辺地域の人々が中心となって推進します。 ・散策ルートの設定 ソフト 地域 ・伊勢遺跡周辺地域等における新たなまちづくりの展開策の取りまとめ ソフト 地域+行政 ・中山道や祭り等の地域資源を活用したイベントなどの実施 ソフト 地域 ・地域の人々が歴史や伝統文化を学ぶ機会をつくる ソフト 地域 ・文化財の常設展示、情報発信、史跡、施設整備 ハード 行政
C. JR東側活性化プロジェクト	伊勢遺跡を活用したまちづくりや地元工場との連携、空家などを活用したまちづくりの展開を検討します。 ・交流や地域活動の場づくり ソフト+ハード 地域+行政
D. 水とホタルから輝くプロジェクト	各自治会でホタル保護に関する取り組みを実施します。また地域の子どもたち等を対象とした水に親しむ活動を実施し、美しい水環境の保全意識の醸成に取り組みます。 ・既存組織と併せて地域の人々や公募による検討グループを結成 ソフト 地域 ・各自治会や小学校等におけるホタル学習会や環境保全活動の実施 ソフト 行政 ・ホタル保護、水環境保全、タバコ喫煙規制、除草散布規制等のルールづくり(ほたルール) ソフト 地域+行政
全般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。 ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

吉身学区活性化の実現に向けて

吉身学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 <small>※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと</small>
A. ホタルを守ろうプロジェクト	学区からの働きかけによって各自治会でホタルを意識した取り組みを始め、自然保護意識の醸成に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ拾い、ホタル鑑賞会、川遊び、イベント幼虫やカワニナの育成等の実施 ソフト 地域 ・水生生物学習会等の学習会の開催 ソフト 地域 ・ホタルを保護し、繁殖させるための生息環境を整備 ハード 行政 ・水辺の遊歩道整備 ハード 行政 ・自然に親しむ環境づくり(ホタルの保護) ハード 行政
B. 吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト C. 中山道を軸とした観光促進プロジェクト	既存組織や地元自治会との連携を図りながら、学区の取り組みとして下之郷遺跡等の歴史資源を活用したイベントの開催等に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・既存組織と併せて地域の人々や公募による検討グループを結成 ソフト 地域 ・地域内のまち歩き、史跡めぐりルートの設定 ソフト 地域 ・中山道ウォーキングマップの作成 ソフト 地域 ・ウォーキングイベントの開催 ソフト 地域 ・ボランティアガイドの育成や勉強会の実施 ソフト 地域 ・下之郷遺跡を活用した憩いの場づくり ソフト+ハード 地域+行政
D. 祭りだ！わっしょいプロジェクト	地域活動の担い手づくりや新旧住民同士の交流を深めるため、交流事業の推進、改善に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・既存組織と併せて地域の人々や公募による検討グループを結成 ソフト 地域 ・学区民のつどいの改善、学区運動会の開催 ソフト 地域 ・季節ごとのイベントを開催 ソフト 地域 ・スタンプラリーの開催 ソフト 地域
全般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援（調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援（まずは既存制度を活用）） ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有（隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進）

小津学区活性化の実現に向けて

小津学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと
A. 農からはじまるお付き合いプロジェクト	遊休農地を有効活用した貸農園、公民館や軒先等を活用して地元で収穫した野菜を販売する朝市等の実施に取り組みます。 ・農業体験イベントの実施 ソフト 地域 ・公民館や自治会館を利用した販売所の開設 ソフト 地域+行政 ・案内ルートマップなどの作成 ソフト 地域 ・活用農地の確保 ソフト 地域+行政
B. 新守山川触れ合い環境整備プロジェクト	地域の人々による新守山川左岸への桜並木づくりについて検討を始めます。また山賀内湖や小津袋を活用した環境学習会等の開催について、学区における既存のグループ等と連携を図りながら推進します。 ・河川清掃の実施 ソフト 地域 ・桜並木づくりに向けた整備 ハード 行政 ・桜並木づくりに向けた植栽の実施 ソフト 地域 ・遊歩道や自転車道の整備 ハード 行政 ・ホタルの保護活動、ホタル保護区の設定 ソフト 地域 ・季節ごとのイベントの開催 ソフト 地域 ・環境学習拠点として集落排水施設を再整備 ソフト+ハード 地域+行政
C. 水に育まれた小津の文化発見プロジェクト	新守山川周辺のウォークルート設定やマップの作成、スタンプラリーやウォークラリー、歴史探検ツアーの実施について、地域のまちづくり組織や既存のグループ等とも連携を図りながら取り組みます。 ・地域の歴史資源等の再発見(掘り起こし)と整理 ソフト 地域 ・看板や標識を作成、設置 ソフト 地域 ・ウォーキングマップの作成 ソフト 地域 ・情報発信 ソフト 地域 ・地域を学ぶスタンプラリーやウォークラリーの開催 ソフト 地域
全 般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン(プロジェクト)の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。 ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘察し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

玉津学区活性化の実現に向けて

玉津学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み【主な取り組み主体】 ※地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと
A. 諏訪屋敷 をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活性化プロジェクト	<p>地域の人々で諏訪家屋敷内の花壇や農園づくり、地元野菜の販売やフリーマーケットなどを実施します。現在取り組んでいる自治会やグループと連携を図りながら、学区全体の取り組みに高めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々やボランティア等による諏訪家屋敷活用を推進する委員会の立ち上げと活用方策の検討(憩いの場作り) ソフト 地域+行政 ・ボランティアの確保(庭の手入れ、花の植栽) ソフト 地域 ・フリーマーケットや野菜の販売などの実施 ソフト 地域 ・隠れた名所の掘り起こし、歩こう会や歴史街道ツアーなどの実施 ソフト 地域 ・歴史や伝統文化の語り部の育成(学習会を開催) ソフト 地域 ・伝統行事のPR(手作りパンフレットやマップの作成) ソフト 地域 ・諏訪家屋敷の再整備 ハード 行政
B. 赤野井湾 再生プロジェクト	<p>小学校や隣接する小津学区、漁業組合等と連携を図りながら、体験ツアーや自然学習会などを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤野井湾再生プロジェクトの推進 ソフト 地域+行政 ・体験ツアーの実施(観光漁業の試行) ソフト 地域 ・外来魚を逆手にとった駆除イベントの実施 ソフト 地域 ・赤野井湾を活用した自然学習、体験学習の実施(小学校と連携) ソフト 地域 ・草刈りなどの実施 ソフト 地域
C. 食の地産 地消推進プロジェクト	<p>地域内の各自治会におけるイベントで、地元でとれた野菜販売やフリーマーケットの開催を、各自治会と連携を図りながら推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グルメイベントの開催 ソフト 地域 ・料理教室・調理実習の開催(伝承を通じた世代間交流) ソフト 地域 ・湖魚活用メニューの開発 ソフト 地域 ・野菜販売やフリーマーケットの実施 ソフト 地域 ・直売所等への出品 ソフト 地域 ・学区民の集いの中で伝統食を食する機会の創出 ソフト 地域
D. 玉津ホタル 祭り・イベント推進プロジェクト	<p>ホタルが飛ぶ川を清掃する際のルールを定めるなど、ホタルを守る意識の醸成に取り組めます。また、玉津を地域全体で盛り上げるイベントの開催や地域情報の発信を工夫します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しむ環境づくり(ホタルの保護) ソフト 地域 ・ホタルを保護し、繁殖させるための生息環境を整備 ハード 行政 ・玉津らしいイベント(玉津ホタル祭りなど)の開催と他地域との連携 ソフト 地域 ・既存の行事の中身の見直し ソフト 地域 ・若者に参加してもらえる工夫・若者の発想の重視 ソフト 地域 ・情報発信パンフレットやマップなどの作成 ソフト 地域
E. 定住促進 プロジェクト	<p>行政との連携を図りながら地区計画の検討を進めるとともに、住んでいる人が住みやすくなるよう改善に取り組めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整区域における地区計画の検討 ソフト 地域+行政

プロジェクト	<p>まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】</p> <p>※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。</p>
<p>全 般 行政</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活慣行の見直しの推進 ソフト 地域 ・地域の人々の安全安心を確保できる環境づくりについて研究(先進事例のノウハウを活用) ソフト 地域 <p>地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘察し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

河西学区活性化の実現に向けて

河西学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと
A. 野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト	<p>学区として、四季を通じて花や川辺の風景、自然が楽しめる地域づくりに取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の連携による「花いっぱい」運動の実施(野洲川河川敷、市民農園、遊休地などを活用) ソフト 地域 ・子ども向けの自然ふれあいイベントの実施 ソフト 地域 ・野洲川河川敷のウォーキングルートの整備 ハード 行政
B. 近江妙蓮活用プロジェクト	<p>学区として、四季を通じて花や川辺の風景、自然が楽しめる地域づくりに取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流ツアー等の実施等 ソフト 地域 ・関連資料(古文書等)の管理体制や観光客受入体制の改善点など検討 ソフト 地域 ・学習会の実施 ソフト 地域 ・河川敷等を活用した花壇づくりや植栽の実施 ソフト+ハード 地域+行政 ・野洲川河川敷のウォーキングルートの整備 ハード 行政 (再掲) ・草花や樹木植樹帯(野洲川水辺空間)の整備 ハード 行政
C. 河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト	<p>地域への関心を高めるため、身近な魅力をまとめたマップを作成し地域の人々に情報発信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングルート、サイクリングルートの設定 ソフト 地域 ・歴史自然の紹介マップづくり ソフト 地域 ・情報発信の具体策を検討 ソフト 地域
D. 河西のみんなで「つながる」プロジェクト	<p>健康づくりイベントや収穫祭、音楽イベントなど、地域内の自治会とも連携を図りながら地域の人々同士の交流を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連イベントなどの実施 ソフト 地域
E. 健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト	<p>企業や事業者の力を活用した高齢者の支援やホテルの住める里川等の環境づくりについて研究・検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の具体策等の確立 ソフト 地域 ・緑地や公園、水辺の環境づくり ソフト 地域 ・野洲川河川敷(北河原公園)の整備 ハード 行政
全般 行政	<p>地域と行政の協働のもと、プラン(プロジェクト)の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援、(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘察し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

速野学区活性化の実現に向けて

速野学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。
A. 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト	地元産品を核とする集客機能の充実を地域の重要な課題として位置づけ、研究や検討を推進します。 ・地域の農産品や魚、食材などの販売可能性の検証と実施(既存の公共施設や商業施設敷地内の利用などの連携を含む) ソフト 地域 ・魅力を創生する地域情報の発信 ソフト 地域
B. 速野まるごとエコミュージアム(仮称)プロジェクト	速野学区の「豊かな自然」や琵琶湖をはじめとする「美しい景観」を特に意識し、これらを活かし楽しむことができるポイント・ルートづくりに取り組みます。 ・自然や四季を感じられるポイントの選定 ソフト 地域 ・各自治会で水辺空間回遊ルートや四季を体感できる回遊ルートの設定 ソフト 地域 ・散策ルートマップなどの作成(琵琶湖の景観や漁港、水辺などを活用したルート) ソフト 地域 ・地域の人々が一体となった環境保全活動を自治会や地域で開催 ソフト 地域
C. びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト	大川や地球市民の森などを活用し、地域内交流、世代間交流を目的とした定例行事を実施します。 ・学区民のつどい等地域行事を地球市民の森で開催(ウォーキングやマラソン大会などを含む) ソフト 地域 ・地域の人々が雑草の手入れなど環境保全に参画する仕組みづくり ソフト 地域 ・地球市民の森の河川でのせせらぎづくり ハード 行政
D. 大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト	地域の人々が参画する仕組みをつくり、地元自治会だけではなく学区をあげて美しくする取り組みを展開します。 ・大川活用プロジェクトの推進 ソフト 地域+行政 ・環境保全の取り組み(花の手入れや雑草の管理を含む) ソフト 地域 ・学習会等の開催 ソフト 地域 ・大川の水質改善と周辺の自然環境改善 ハード 行政 ・遊歩道整備 ハード 行政
E. いにしへの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト	それぞれの自治会が開催する行事やイベントの際に、自治会同士が交流する取り組みについても推進し、助け合い支え合いの風土づくりに取り組みます。 ・回遊ルートマップの作成 ソフト 地域 ・地域イベントの際に地域内の人々同士の交流機会を提供 ソフト 地域 ・学区民の集いなどで、ウォークラリー等地域の歴史を学べる機会を提供 ソフト 地域 ・地域資源を紹介するDVDなどの作成 ソフト 地域
F. みんなで考えよう速野の未来プロジェクト	地域の運営体制・方法の見直しを地域の重要な課題と位置づけ、研究や検討を推進します。 ・まちづくり組織の見直し ソフト 地域 ・地域リーダーとなる若手の人材発掘、研修 ソフト 地域 ・学区、自治会の古い運用を改善 ソフト 地域 ・ヒヤリハットマップの作成 ソフト 地域

プロジェクト	<p>まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】</p> <p>※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。</p>
<p>全 般 行政</p>	<p>地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援（調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援（まずは既存制度を活用）） ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有（隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進）

中洲学区活性化の実現に向けて

中洲学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと
A. 野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト	中洲小学校横の野洲川河川敷を活用した誰もが野洲川の自然に親しめる場所づくりや、伏流水の取水等について、行政、有識者と連携して研究・検討を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・河川敷の整備計画の検討 ソフト 地域+行政 ・野洲川河川敷公園の整備 ハード 行政 ・伏流水の取水方法検討、実施 ソフト+ハード 地域+行政 ・伏流水を活用した里中河川沿いの景観づくり ソフト 地域
B. みんな集まれ！中洲にぎわい活力創出プロジェクト	新たなイベントを実施するのではなく、まずは、既存のイベントを改善工夫（野菜の販売やフリーマーケット等）することから取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・既存イベント改善策の検討、実施 ソフト 地域
C. 農業を元気にするプロジェクト	フルーツランドやビックレイクなどを活用した地元収穫の野菜や加工品の販売、また貸農園や体験型農業についても経験者のノウハウを参考に試行的な実施を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・具体策等について検討、実施 ソフト 地域 ・特産品の開発 ソフト 地域 ・交流販売拠点としての「フルーツランド」の機能充実 ハード 行政
D. 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト	公共交通にかかる問題を地域の重要な課題として位置づけ、地域の力を活用した公共交通などをはじめ、更なる研究、検討を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> ・具体策等について検討、実施 ソフト 地域+行政 ・公共交通利用促進策の検討と推進 ソフト 地域+行政 ・地元店舗へ協力願ひなどの協議 ソフト 地域+行政
全般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援（調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援（まずは既存制度を活用）） ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有（隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進）

2. 市域を「つなぐ」守山まるごと活性化

学区ごとの個性をベースにした学区別プランを全般的な視点で眺めてみると、各学区に共通するものが見えてきました。

ひとつは、地域の人々が大切にしているものです。どの学区でも、「水と緑」、「伝統」、「人」、この3つのキーワードが登場してきます。

水と緑

水辺やホタル、草木や田園の風景と営み など

伝 統

地域の歴史資源や祭り、営みの記憶、ゆかりのある偉人 など

ひ と

地域を良くしたいと考え行動する人、人と人のつながり など

もうひとつは、活性化の取り組みです。他の学区と共通する取り組みについては学区をまたいで、また市域全体の課題として取り組むことも必要だと考えていることです。

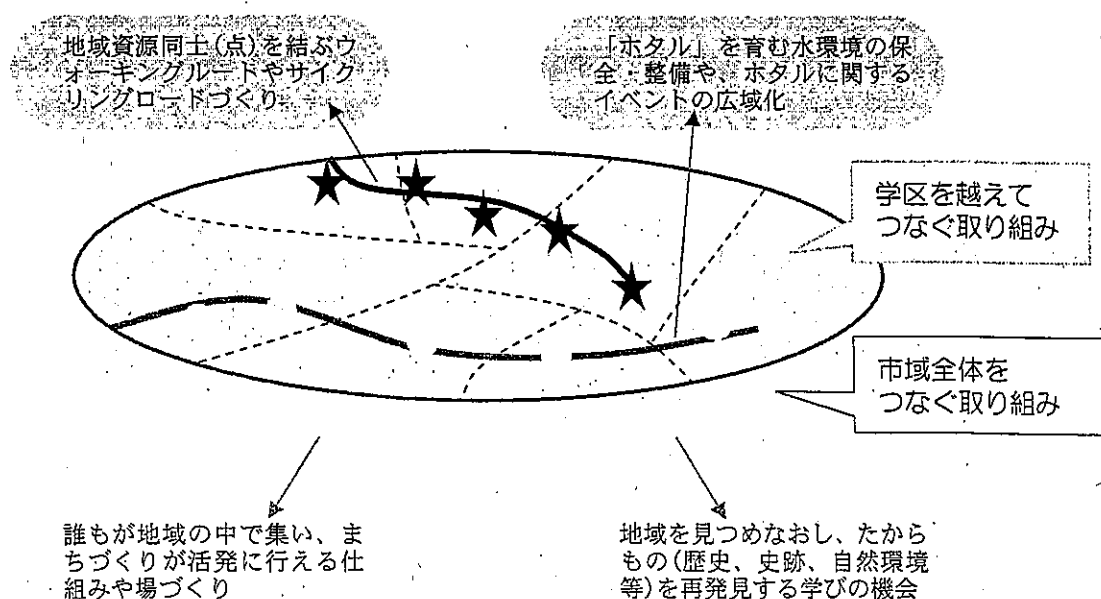
関係他学区と

道や川に沿った取り組み、大規模な祭りの活用 など

守山市全体で

地域や個人が活性化に取り組むための仕組み、情報の提供 など

このため、学区ごとに取り組んでいくことを基本にしながら、さらに学区同士や市域全体を「つなぐ」取り組みについても積極的に推し進めていきます。ルートづくり、推進の仕組みづくりなどにより、点である地域資源を線で結び面に広げ、学区の個性を活かしながら守山市全体の魅力を高め、双方の活性化を図ることをめざしていきます。



第4章 計画の実現に向けて

地域・市が協働したプロジェクトの実現

1. 各学区での推進方向

この計画に示したプロジェクトは、地域のみなさんが考え、アイデアを出し合ってつくりあげたものです。プロジェクトの実現については、地域が主体となり市と連携して進めていくことが基本となります。

(1) 取り組みの体制づくり

プロジェクトの推進体制は、自治会や活動実績のあるまちづくり団体・個人を活かしながら、動き出しやすく無駄の少ない組織を構築していくことが重要です。

個々のプロジェクトを具体化することと計画全体を進めることでは、関係する団体・人や検討する内容も異なります。それぞれの役割を考慮しながら、自治会などの既存組織の枠を広げたり、新たに組織を立ち上げるなど、柔軟に検討して実現します。

幅広い地域の人々や団体に参加してもらうことと、その中からまちづくりの担い手を育てていくことをねらい、取り組みの内容や活動状況についての情報の提供、関連する学習や体験の機会づくり、気軽に参加しやすい体制づくりなどに配慮します。

(2) 優先事業の検討と順次実施

計画に示した多数のプロジェクトを同時に進めることは難しいため、その効果や実現のしやすさを見極め、優先順位を決めて取り組んでいくことが求められます。

「まずはじめに進めていく取り組み」にあげたものについて、実施すべき内容と成果のイメージを地域で共有し、どういう手順でどのような役割分担で取り組んでいくのかを検討します。

※「まずはじめに進めていく取り組み」は、計画策定の段階で想定したものであり、地域での今後の検討や取り組みの進み具合により、優先順位や内容が変わる可能性があります

きっかけとして、すでに取り組みの一部が始まっているもの、関連する行政の事業が計画されたり実施されているもの、行政からの経費支援が見込めるものなど、実現性の高い取り組みを活かしていきます。

(3) 進捗状況の確認と見直し

プロジェクトを確実にまた効果的に実現させるために、取り組みの進捗状況や成果をチェックし、その結果を反映して見直していくという考え方で、進めていきます。

プロジェクト及び学区の計画全体について、定期的に関係者が集まって進捗具合を確認し、次のステップの進め方を検討する場を設置します。

進捗状況について地域の住民や団体へお知らせするとともに、進め方などへの意見を聞く機会を設けていきます。

2. 市による取り組みの推進支援

本市は、地域と行政が協働してプランの実現を図ることができるよう、地域の自主性・自発性を大切に、プロジェクトの検討から実施までの各段階で積極的・継続的に支援を行います。

(1) 支援体制

① 地区会館

地区会館は、プロジェクトの検討や具体的な取り組みを進める際の相談役として、また地域と他の学区や行政等をつなぐ窓口として、地域での取り組みを支援します。

【主な支援内容】

- プロジェクト実施主体の立ち上げや活動の後押し
- 地域と行政各部署との連絡調整 など

② 市役所担当部署

市役所は、プロジェクトごとに担当する部署を定め、それぞれの役割を活かして具体化の取り組みを支援します。

【主な支援内容】

- 関係団体・機関との連携、実現化課題についての相談・情報提供、調整
- 地域での話し合いの進行補助
- 市庁内各課や国・県、関係機関等との協議・連携 など

(2) 経済的支援

市は、プロジェクトを具体化するために必要な経費を予算の範囲内で支援します。

【主な支援内容】

- 既存の補助金、交付金制度の活用
- 国、県等の補助金の積極的活用
- 具体化に向けた検討経費やイベント等試行のための経費

(3) 関連行政事業の実施

施設の整備など、プロジェクトに関連して行政の事業化が必要なものについては、地域における取り組みの進捗状況や市の財政等を勘案しながら、順次、担当部署において事業化します。また関連する行政計画へも位置づけして、着実な具体化を図ります。

(4) 進捗管理の実施

各学区や市全体での進捗状況や取り組み上の課題などを、学区代表や行政などの関係者が共有する場を定期的に設け、意見交換やお互いの取り組みの調整、対応策の検討等を行います。

【主な検討項目】

- 共通する課題や課題解決策
- 隣接学区間で関連のある取り組みの調整や連携
- 学区を横断して進めるべきプロジェクトの企画・調整
- 計画実現に関する情報発信など全市的な取り組み など

守山まるごと活性化プラン検討委員会（第3回全体会議）議事録

日 時：平成25年12月16日（月）19:30~21:10

場 所：吉身会館

出席者：【委員】：布野委員長、高野副委員長、
河野委員、小西委員、杉田委員、高谷委員、竹村委員、谷口委員、
（代）井上委員、中委員、西田委員、西村委員、濱崎委員、日下山委員、
藤井委員、舟橋委員、本城委員、三品委員、三宅委員、村上委員、
山岡委員

【事務局】：島戸政策調整部長、大寄政策調整次長、坪内課長補佐、吉原主査

【その他】：関係職員、コンサルタント

次 第

- (1) あいさつ
- (2) 学区毎のプロジェクト（具体策）について
- (3) まるごと活性化プランの内容構成について
- (4) 今後の検討および策定の進め方について
- (5) その他（事務連絡など）

1 開会

あいさつ（部長、委員長）

2 議事

(1) 学区ごとのプロジェクト（具体策）について

布野委員長	学区別に補足や思いを説明いただいた後、必要があればアドバーザーを務めていただいている浜崎先生にコメントをいただきたい。
井上委員	学区長が所用のため欠席しているの、代理出席している。 守山学区の現状は、現在抱えている課題がかなり多いことである。マンションや住宅開発により新住民が急激に増え、これまで培ってきた地域のつながりが薄らぎ、役員の成り手がなく困っている。細々とした地道なボランティア活動のもとに今日の素晴らしい守山学区が築き上げられているので、今後もぜひこういった活動を継続していくべきであると思うし、地域の良さや活動をこれからも繋げていきたい。 しかし、地域の大きな変化によって、今までの自治会運営では立ち行かなくなってきた。今こそ自治会運営について真剣に考えていかなければ

	<p>ならない時である。まるごと活性化につなげるためにも、「自治会の魅力向上プロジェクト」をメインテーマに上げ、現状をしっかりと議論し、良い学区にしていきたいと考えている。</p> <p>残りのプロジェクトについては、時間もないので割愛する。もし、後で時間があれば紹介させていただきたい。</p>
布野委員長	<p>新旧住民の問題に住民自らが解決するため、取り組もうとされていることは、全国的にも珍しい。駅周辺地域ではそういうことが起こっており、守山学区では組織体制等の構築がメインテーマであるということである。水とホテルは全市的課題でもあるが、守山学区では他にも伊勢遺跡と歴史資源の取組が上がっている。</p>
濱崎委員	<p>上手くまとまるか心配するほど守山学区では、活発な議論が交わされていたが、最後は上手くまとまって良かったと思っている。学区としてかなりエネルギーがあるという印象を受けた。</p>
三宅委員	<p>たからもの探しに始まり5回の会議の中で議論を進めたが、JRを隔てて西と東に分断された学区であるため、同じ状況の守山学区と似たプロジェクト内容となっている印象を受けている。</p> <p>東の立入小学区が4割、西の吉身小学校区が6割という住民構成であり、まちの活性化のためにも東側にもまとまったものがあればという意見も出ている。</p> <p>ホテル保護活動にしても経験者がなく、取組の方向性の役割分担や具体化が出来ていない。「中山道を軸とした観光促進プロジェクト」「祭りだ！わっしょいプロジェクト」をはじめ、守山学区と共同で勉強しながら進め、吉身学区の中でも独自の取組ができればと考えている。</p>
濱崎委員	<p>吉身学区は比較的順当に進んだので、特にコメントはない。</p>
三品委員	<p>小津学区内の9町のうち6町は新守山川に隣接していることもあり、新守山川は身近にあり、常に親しんでいる学区のたからものである。</p> <p>桜の植樹やウォーキングコース、散策コースの整備が学区として取り組みやすいため、まずはこういったものから進めていき、ホテルや自然を大切にしながら人が集まりやすい場所にしていきたい。</p>
谷口委員	<p>玉津学区は過疎化が進み、人口も小学生数も市内で一番少ない学区である。歴史が古く寺院や諏訪屋敷を中心に発展したまちであるため、この取組でも諏訪屋敷を中心としたプロジェクトで学区を盛り上げていきたいと考えている。2~3年前から諏訪屋敷を活用した取組を始め試行錯誤を繰り返しているが、こういった自治会の経験を活かした取組をまるごと活性化の中で更に拡大したいとの意向でうれしく思っている。農村文化まるごと体験</p>

	<p>の取組についても2~3年前から実施し、地産地消に取り組んでおり、ひとつの自治会での取組を玉津学区全体に広げ、内容を充実させていく。</p> <p>「赤野井湾再生プロジェクト」については、赤野井湾は魅力のある場所であるので、是非とも再生したい。小津・玉津漁業組合等各種団体と協力して観光資源化し、昔の面影を取り戻すように取組を発展させていきたい。</p> <p>「定住促進プロジェクト」については、ひとつの自治会で地区計画を活用し、人口増加につながるような取組を進めたいと考えている。</p>
布野委員長	<p>同じ市内でも新住民が増加している地域と過疎化が進んでいる地域がある。これを上手くセットできればすごいモデルになるのではないかと。</p>
濱崎委員	<p>過疎化対策として、都市計画を活用して人口増加を進めたいという意見が強く出ていた。何らかの方法で人口増加地域と減少地域のバランスをうまくとることを考える必要がある。</p>
高野委員	<p>河西学区は玉津と守山・吉身を合わせたような学区である。一時は大幅に減少した河西学区の生徒数も、近年宅地造成が進んだことで千人を超え、若い世代が集まる地域と高齢化率の高い地域と両極端の自治会を抱えている。</p> <p>学区内に流れる野洲川とは切っても切れない関係である。笠原の堤防の桜並木、喜多の薄墨桜、近江妙蓮があり、その季節には多くの人を訪れるが、四季を通じて1年中楽しめる花のまちにしたい。コスモスなどは3年しか咲かないため、スイセンや彼岸花など球根植物を笠原から川田大橋間の堤防に植えたいと考えている。また近江妙蓮を国の天然記念物に指定してもらうように申請する動きも始まっている。花のプロジェクトは10~15年がかりの取組になるが、学区の住民が同じ作業で集まるといことは、新たな交流を生むことになり、住民同士のつながりを生む。</p> <p>野洲川河川敷の川田グランドゴルフ場の近くに市がスポーツ公園を整備中であるので、このあたりも一体的につなげて河西学区の名所にしていきたい。</p> <p>秋に河西学区の名所ウォーキングイベントを実施したが、あっという間に定員に達した。阿比留のカワトなど住民でも知らない多くの発見があるため、毎年続けていき、ウォーキングマップの作成を進めたい。</p> <p>また、今までの学区広報誌は開催報告が主であったが、今後は開催のお知らせなど未来形の発信をしていきたいと考えている。</p> <p>野洲川近辺がクローズアップされているが、西側にも市民農園と荒身ファームがある。別々に実施していた収穫祭を来年度からは合同開催するように依頼し、河西の良さを発信していきたい。河西の川ではどこでも魚が取</p>

	れるため、こういったこともひとつのたからものとして活用していきたい。
濱崎委員	個人的に衝撃を受けたのは阿比留集落で、かなり面白い空間構成をしている。周りを新興住宅地に囲まれているので、中の良さが見えにくいですが、部分的に切り出せば文化的景観として文化財になる。議論の中でも、阿比留の学区内での認知度が低いような気がした。少し見方を変えて、文化的景観としてとらえ方で違う方法で活用していく方法もある。
布野委員長	学区住民でも知らなかったということだったが、カワトは滋賀県内でも地域性があるのか。
濱崎委員	水が出るか出ないかという問題や、針江のように自噴しているところもあれば、五個荘のように川の水を引っ張りこんでいるところもある。
布野委員長	花の活用は1年を通じて取り組めそうか。
高野委員	1年を通じて取り組む予定である。
山岡委員	<p>大阪からみると、京都を超えて滋賀にはなかなか目が向かないだろう。滋賀でも彦根や長浜は知られているが、守山は知名度が低い。関西圏での守山の認知度を上げるため、何かヒット商品やシンボルとなるようなものができるかと考えている。また、県内であっても大津側から琵琶湖大橋を渡って来ても、看板がなければ守山市だとわからないのではないかと。ピエリが衰退したこともあり、買い物はイオンモール草津か竜王アウトレットへ行き、守山市に人が集まらなくなっている。</p> <p>速野学区は琵琶湖に隣接しており、琵琶湖や対岸の山並みなど速野の景観は守山一だと思っており、素晴らしい地域である。自然やスポーツを通して楽しめる回遊ルートや花のネットワークづくりの取組等で、明るく美しいまちづくりにより、活性化を目指していく。</p> <p>速野学区は市内で一番若いまちだと思っている。10自治会のうち3自治会は設立して15年経っていない。守山市の北玄関であるこの地域がいずれは中心市街地よりも活性化していくと思っているので、学区で力をあわせて、関西で知らない人がいないように守山市の知名度を上げていきたい。</p>
本城委員	<p>中洲は学区の真ん中に野洲川放水路が流れており、切っても切れない関係である。昔は伏流水がふんだんに流れ湧水が自噴もしており、各家庭にカワトがあり日常生活に利用していた。新放水路になってから、水がなくなりホテルもいなくなってしまった。全体会議の委員でもある水の専門家の河野先生のご指導を仰ぎながら、行政からも積極的に伏流水の再生に働きかけをしてほしい。</p> <p>野洲川河川敷も荒れ放題であり、いかだ下りイベント時の草刈りも実行委員で行なっている。野洲川河川敷の活用はまるごと活性化プランにも盛り</p>

	<p>込んだが、野洲川かわまちづくり検討委員会でも検討し、3年計画で取り組むことになり、27年度には取り組むという姿勢で進めている。中洲のまちづくりの原点は川であり、水なしのまちづくりは考えられない。</p> <p>また、ビックレイク等の集客施設はあるが、バスの便数が少ないため、タクシーの相乗り利用で、バスを利用しない。その結果ますますバスの便数が少なくなるという悪循環が生じている。地域公共交通の活性化にも行政主導で取り組んでいただきたい。</p>
河野委員	<p>伏流水は自然現象であるので、人が相当努力して取り組まないと解決は難しい。改修以前の野洲川は天井河川であったため、中洲を中心に伏流水も豊富であった。しかし、災害面を考慮すると、伏流水がなくなるのは仕方がないことである。</p> <p>自然と人間の調和共生を慎重に考えながらプランをつくる必要がある。自然を大切にしようとする人間は我慢しなければならない。人間の欲望を取り入れると自然が後退するという、どうにもならない部分もある。</p> <p>伏流水を昔のように回復するのは無理でも、それに近い代替案の技術はある。そのためには労力と予算が必要であり、この場での対応は難しいので、別途プロジェクトを立ち上げ専門家を交えた議論が必要である。</p>
布野委員長	<p>学区からあげられた取組の役割分担や予算、運営管理については、学区と市との関係の中で来年度以降進めていくことが前提だと考えている。</p> <p>今年度中に計画をつくり、来年度から具体的に動き始める。そのためには、予算や役割分担の問題がある。各学区で現在市が取り組んでいる施策が挙げられており、その中で今すぐできる取組もあれば、時間をかけて議論していく問題もある。</p> <p>重点項目や7学区の共通性等、市全体を俯瞰した立場で残り時間で議論していただきたい。</p> <p>その前に、前回会議後にいただいた意見について補足説明をいただきたい。まずは今日の議論もあるので、まとめに向けて高谷先生からコメントをいただきたい。</p>
高谷委員	<p>時間もないので、提出した資料を読んでいただければと思う。</p>
布野委員長	<p>私の理解では、各学区の歴史的遺産を大事にしないということが基底にあるという理解をしている。</p>
日下山委員	<p>電柱もないような田園風景の真中に倉庫が立ち、景観が崩れてしまったことがあり残念に思った景観がある。守山ではそういったことがない様に慎重に保全や開発を進めていただきたい。</p>
西田委員	<p>全体会議の中での説明時間が長く、委員の意見を吸い上げたり議論の時間</p>

	がもっと必要であると思ったので、意見として書かせていただいた。
竹村委員	南の玄関の伊勢町に住んでいる。7学区の議論の中でテーマやプロジェクトが出ているが、水、ホテル、人のつながりなど各学区のテーマが共通しているように思う。学区のプロジェクトをまとめて、計画的に順次テーマを決めて取り組んでいただきたい。
布野委員長	指名はしないので、順次発言をいただきたい。
本城委員	中洲学区では現在あるイベントを大事にしていこうと考えている。中でも中洲小学区の半世紀経つ30mのメタセコイヤをツリーにしている。中洲学区の世帯数分の電球を灯したツリーとなっている。駅前だけでなく中洲小学校にもそういったツリーがあることを見ていただきたい。
布野委員長	全体会議では絞ってまとめてメリハリを聞かせる議論をする役割だと思っていたが、時間がない。
山岡委員	琵琶湖大橋のもとに守山市のシンボルマークであるアーチを何が何でも作っていただきたい。
藤井委員	<p>玉津、小津、中洲学区の第5回会議に参加した。参加者がいきいきとダイナミックな議論が交わり、ここに盛り込まれていない個別の意見が多く出ている。重点プロジェクトに盛り込まれていない意見もプランでは活かしていくということだったので、全体会議において性急にキーワードでまとめてしまうと、学区ごとの固有性とアイデンティティが失われてしまう。</p> <p>1月に各学区に持ち帰るということなので、他学区でどんな意見が出たかを見ながら、相対化は各学区の中ですればいい。全体会議で早くまとめてしまわない方がいいのではないか。</p> <p>NPO法人豊穡の郷では早くから水辺百選を選出している。そういったNPOを含めた既存の活動団体と連携しながら進めていくことで、知的財産と構造財産が活かされ地域が生きていくのではないかと。</p>
布野委員長	今の意見も最もだが、一方でミッションとしてまとめるように市長から預かったと思っている。
高野委員	このプランは3年から10年かけて取り組むと記載されている。ひとまず26年度は何かできるのかなど短期的にできることと長期的に出来ることを分けながら学区で出来る取組を考える。全体会議としては、年度毎に学区の取組をまとめていく方法でいいのではないかと。それに対して行政は予算化をしていただく。
西村委員	7学区の発表を聞き、何か足りないと感じていた。中心市街地活性化で商業に力を入れているが、まるごと活性化の中でも学区にある地元の商店を大

	事にする取組が抜けているのではないか。水とホテルと自然だけでなく、地元の商業を大切に取る取組を重ねていかないと活性化につながらないのではないか。
--	--

(2) まるごと活性化プランの内容構成について

藤井委員	読み手の主体が市民であるならば、このような行政チックなまとめでは活性化しないだろう。例えば学区ごとに円盤みたいなものがあり、動かしていくと玉津が出てきたり中洲が出てきたりという、動いていることがわかるような、今までとは違うまとめ方をしないといけないのではないか。高谷先生がおっしゃったような50年先の大きな夢を置くと全く違う訳で、資料としては大事なのでまとめは必要だが、市民が読んで、自らも参加したいと思わせる型を破った見せ方をしてはどうか。
布野委員長	まとめ方をどうするかは、藤井委員の発言も踏まえて考える。資料集としてまとめながら、概要版パンフレットをつくる方法もある。

(3) 今後の検討および策定の進め方について

布野委員長	次回は学区ごとの26年度の取組についての議論がメインになる。時間が気にならないように休日の午後の開催にしてはどうか。まだ発言いただけない委員もいらっしゃるの、言い残されたことなど発言をいただきたい。
井上委員	資料には具体的取組がまとまっているが、実施主体が明確になっていないので、今後これらの取組が実際にできるのか心配している。
布野委員長	来年度に向けてのアクションプランであるには、実施主体が記載されているほうが取り組みやすい。来年度に向けてどうするかは協議していただきたい。
事務局	行政の予算枠もあるが、市としては地元の思いを何よりも大事にしていきたい。これについては次回の議論で進めたい。
布野委員長	箱モノはダメとしか聞いていないが、それ以外にどれくらいの予算がつくのか。
事務局	現在予算要求をしている段階である。その中で地元からの要望の大きさを考慮して決めることになる。 4回目の全体会議は2月開催の予定をしているが、委員長と相談させていただきながら、全体会議の回数も含めて可能な範囲で軌道修正をしていきたい。 委員長にご提案いただいた休日開催についてはどうか。
布野委員長	7時半開催では時間が足りない。
高野委員	土日は学区のイベントが多く、学区長は忙しいので避けていただきたい。7

	時から9時過ぎまでとすれば時間は確保できるのではないか。
布野委員長	学区長が出席できないようでは困るので、平日の7時開始で次回の日程調整させていただく。
藤井委員	学区別の日程が決まれば委員にも周知していただきたい。
事務局	お知らせさせていただく。 学区では熱心な議論をいただいている。それもプランの目的のひとつだと考えている。その目的も達しつつあるが、全体会議でもプランをまとめていきたいので、今後ともよろしく願いたい。